

令和5年度

緑生苑事業計画

今年度のテーマ

「皆様の人生のお供をさせていただきます～生活支援と科学的介護の理論と実践～」

1 特別養護老人ホーム緑生苑

昨年度から継続し、今年度のテーマも「皆様の人生をお供をさせていただきます～生活支援と科学的介護の理論と実践～」です。このテーマを実践するために、利用者様1人1人に、関わりを通して、理解をする姿勢がなければ、実践出来ないものです。私たちの支援内容を提案するにあたって、口頭発言や文章での表現だけではなく、時にはカメラを通した映像や画像、実践で得た数値上のデータも駆使して、利用者様や身元引受人様等の契約者の方へ提案してまいります。私たちの支援内容を信頼をいただく上でも、生活上のリスクも含めた様々な角度からお伝えできる用意をし、緑生苑での生活が少しずつ、納得いただけるように支援をいたします。

科学的介護の取り組みは、記録業務のICT化により、データ作成の苦労は少なくなりました。そのデータの活用を目指し、何故、目標値とする水分量・食事を摂取する必要があるのか。何故、排せつは下剤をなるべく使用せずトイレ誘導を目指すのか。何故、機能訓練は歩くことをメインに推奨しているか。そうした取り組みの1つ1つが段階を経て、推進できるように全体への研修で理解を深めてまいりますし、関係する皆様へお伝えしていきます。また、科学的介護の道筋だけでなく、看取りの対応の方であったり、機能向上だけによらない個別ケアの充実化をはかりたい方への取り組みも積極的にすすめてまいります。

労働環境がどんどん変化しております。継続したサービス提供を目指すべく、子育ても頑張りたい、日勤帯あるいは夜勤帯を多く頑張りたい、親の介護の対応をしている、定年を迎えたがまだまだ働ける、そうした職員1人1人の事情に即した勤務体制を作るべくさらなる柔軟な働き方が求められています。そうした想いに応えるべく、勤務形態を柔軟に即したものに調整してまいります。

2 短期入所事業

ご家族様の介護負担軽減、病院から退院時の一時的な利用など、多くの場面でショートステイのご利用を提供してまいりました。入所型施設の利用者様のようにじっくり日にちをかけて慣れていただくより短い期間の利用がどうしても多くなるため、双方に対応が難しい場面は存在しておりました。双方の同意が得られれば、居室内のカメラも設置検討しながら、施設で出来ることを確認いただき、必要な支援内容を決めて、実践いたします。

3 デイサービス事業

新型コロナウイルスの感染症に対して、一定の条件緩和が見込まれるので、状況をみながら予防の取り組みを堅持しつつ、ここへ通うことで生活が成り立つように、通所介護の生活支援を提供してまいります。長年、緑生苑と業務提携をしてた理学療法士・あん摩マッサージ師の派遣のスマイルケアサービスが事業の撤退を決められましたので、施設として機能訓練指導員を雇用をし、これまで継続してきた小集団の機能訓練や個別機能訓練の取り組みがさらなる広がりを見せられるように対応してまいります。

4 居宅支援事業

居宅介護支援事業所はケアマネ4名体制へ移行し、24時間連絡が可能な特定事業所としての指定を受け、地域の皆様にとってより使いやすく、専門性の高いケアマネジメントを実践できる事業所運営をしてまいります。各ケアマネ職員へノートパソコンやスマートフォン等のICT機器を取り揃え、安全な情報管理の下、必要な情報共有や各事業所との連携をとり、適切な支援につながっていくように支援をしてまいります。

地域の相談窓口として、高齢者いきいき相談室を運営しており、地域包括支援センターである各所いきいき支援センターと連携し、認知症初期支援や困難事例の方の受入れも継続して行ってまいります。